

表・ポスター発表)および研究部会等, 18日(月)にエクスカージョン(巡検)がそれぞれ行われた。筆者は17日(日)の一般研究発表に参加し, 人口に関連する報告を中心に聴講した。そのなかでとくに公募セッション「現代山村の存立構造」では, 人口減少が著しい山村地域における諸課題やそれらを克服しようとする地域の様々な試みが報告され, 将来の地域の持続可能性について考えさせられることが多かった。以下に, 人口に関連する主な報告タイトルを記す。

- ・西原純(静岡大学 名誉教授)「47都道府県の人口ビジョン策定の特徴とその達成可能性」
- ・豊田哲也(徳島大学)「就業者の都道府県別所得からみた地域格差と人口移動—2007~2017年就業構造基本調査の分析—」
- ・土屋純(関西大学)「阪神・淡路大震災後のコープこうべにおける供給事業の変革—人口減少, 高齢化に対応して—」
- ・西野寿章(高崎経済大学)「田園回帰期における山村の現状と地域的課題」
- ・作野広和(島根大学)「島根県邑南町における「地区別戦略」の成果と課題—山村の持続可能性を追求する—」
- ・中條暁仁(静岡大学)「過疎山村における寺院の無住化とその地域的要因」
- ・矢部直人(首都大学東京), 岡野雄気(首都大学東京・院)「訪日外国人の地方訪問に関する縦断データの分析」

(小池司朗 記)

## 第8回アフリカ人口学会

ナイロビ・サミットの翌週, 隣国のウガンダにて第8回アフリカ人口学会が開催された。多くのナイロビ・サミットの参加者が, そのままアフリカ人口学会に参加しており, 筆者もその一人である。会場はウガンダの首都カンパラの飛行場があるエンテベのホテルで, 2019年11月18日から22日の期間開催された。

国際人口学会やアジア人口学会と同様, 出生, 死亡, 移動, 分析手法など16分野にまたがる多くのセッションが行われ, 高齢化も一つの分野としてとりあげられていた。筆者は「サブサハラアフリカの保健・福祉分野人材—その人口面における国際比較」と題する報告を行い, また共著者として「サブサハラアフリカの女性の労働参画と人口ボーナス—アジア・ラテンアメリカからの教訓」と題する報告にも同席した。

「人口推計:方法、仮定と含意」と題するセッションでは, ウィルモス国連人口部長とオーストリア国際応用システム分析研究所(IIASA)のルッツ教授が, 自分たちが行っている世界人口推計についてその優位性を弁護する, というディベート形式で行われた。ウガンダでこのような話が聞けるとは意外であり, また興味深かった。今後は米国・シアトルのワシントン大学保健指標評価研究所(IHME)が世界人口推計を別途作成すとも伝えられており, 世界人口推計が乱立することも予想される中, 人口学会で, それぞれの違いを明らかにするような学術的な議論が行われることは重要である。

第8回アフリカ人口学会のプログラム, 報告内容等は <http://uaps2019.popconf.org/> から閲覧できる。  
(林 玲子 記)